

「英語コミュニケーションⅡ」シラバス

学科	商業科	学年	3 年	類型		組	5 組	単位数	3
使用教科書	Vivid English Communication Ⅱ（第一学習社）								
副教材等	英単語ターゲット 1400 5 訂版（旺文社） Next Stage 英文法・語法問題 4th Edition（桐原書店）								

1 学習の到達目標

① 日常的な話題について、必要最低限の情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を理解するとともに、積極的に情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うことができる。
② 日常的な話題について、必要最低限の情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を理解するとともに、平易な英語を用いて、情報や考え、気持ちなどを書いたり、発表したりすることができる。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により、観点別評価と 100 点法の評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を更に深め、実際のコミュニケーションにおいて、場面や状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けているか。	(5)(6)(7)(8)(9) (10)(11)(12)
思考・判断・表現	目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で話し手や書き手の意図や考えを的確に理解したり、自分の考えや気持ちをまとめ、積極的に伝えたりしようとしているか。	(5)(6)(7)(8)(9) (10)(11)(12)
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	(1)(2)(3)(4)(5)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1)ペアワークやグループワークへの参加状況 (2)教師の質問に対する応答	
課題などの提出状況	(3)週末や長期休業中に指示する課題 (4)日々のプリント	
言語活動の観察	(5)スモールトーク等の会話 (6)プレゼンテーション (7)ライティング活動	
インタビューテスト	(8)口頭テスト (9)音読テスト	
ペーパーテスト	(10)定期考査 (11)長期休業後の確認テスト (12)小テスト	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	Lesson 7 “Cloning” Cultural Properties Lesson 8 Peace Messages from Hiroshima 全国商業高等学校協会主催 英語検定に向けての対策	・毎日の家庭学習で予習・復習の徹底を図る。特に復習に重点を置いた学習に取り組む。 ・英語検定試験でも重要と思われる内容を徹底して繰り返し習得するために、授業においては以下の項目に努める。 (ア) 音読を通して正確な発音・リズム・イントネーションを習得する。 (イ) 文化財、国際平和、地域社会に関する英文を読んで、基本的な知識を身に付ける。 (ウ) 重要表現を使い、自分の考えを表現する。 (エ) 構文やイディオムを習得する。 (オ) 前時で学習した基本的な表現を用いて、簡単なスピーキングができるようになる。	(7)(9) (6)(8)
二 学 期	全国商業高等学校協会主催 英語検定に向けての対策 Lesson 9 Invigorating Our Local Community Lesson 10 The Underside of Wildlife Tourism 全国商業高等学校協会主催 英語検定に向けての対策	・1学期と同様に予習・復習を中心とした学習を行う。学習の際には、以下の項目に取り組む。 (ア) 必ず新出単語を各自家庭で調べ、音読を通して、英文の大きな内容を自分の力でつかむ努力をする。 (イ) 環境問題に関する英文や物語文を読み、考えや意見を述べられるようにする。 (ウ) 基本的な文法と構文について練習問題等を通して学習し、定着を図る。 (エ) 学習した単語や構文を理解した上で、それを使って英語でコミュニケーションを図る。 (オ) 長い文章を読み、内容を大まかに捉えることで、読解力を身に付ける。	(7)(8) (6)(7)
三 学 期	Optional Lesson 2 Information Please	・1、2学期の内容を踏まえて、以下の点について学習する。 (ア) 2学期に引き続き、長い文章を読んで、読解に必要な情報を探し出し、内容について自分の英語で述べるができるようにする。 (イ) 文を読んで、理解を深めるとともに、考えや意見を発表できるようにする。 (ウ) 学習してきた語彙や文法、構文についての復習を行い卒業後の英語学習につながるようにする。	(7)(8) (6)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(10)(11)(12)については、全ての単元において評価項目として用いる。